

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成29年9月28日(2017.9.28)

【公開番号】特開2017-13722(P2017-13722A)

【公開日】平成29年1月19日(2017.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2017-003

【出願番号】特願2015-134868(P2015-134868)

【国際特許分類】

B 6 0 R 19/04 (2006.01)

B 6 0 R 19/18 (2006.01)

【F I】

B 6 0 R 19/04 M

B 6 0 R 19/18 Q

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月18日(2017.8.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 5】

図 1 0 はバンパリーンフォースメント 1 4 の変形量に対する荷重の変化を従来技術と本実施形態とを対比して示す線図である。図 1 0 の線図において、G は従来技術、H は本実施形態を示す。この両者の比較線図から良く分かるように、座屈タイミングは従来技術では変形量 m 1 の位置であったのに対し、本実施形態では変形量 m 2 の位置となり、変形量 m d だけ遅れて生じる。これにより座屈が生じるピーク荷重も従来技術では n 1 であったのが、本実施形態では n 2 となり大幅にピーク荷重の増大も図られる。評価試験結果の数値は、従来技術 G の座屈荷重（ピーク荷重）n 1 が 1 3 3 K N で、その変形量 m 1 が 3 5 m m であったのに対し、本実施形態では座屈荷重（ピーク荷重）n 2 が 2 4 3 K N で、その変形量 m 2 が 5 6 . 8 m m である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

図 1 2 はエネルギー吸収量効率比較を示す。エネルギー吸収量効率とは〔エネルギー吸収（E A）量 / バンパリーンフォースメントの質量〕である。従来技術を 1 0 0 とした場合、本実施形態は 2 0 0 という高い値の効率を得た。なお、本説明でのエネルギー吸収（E A）量は、従来技術および本実施形態それぞれについて、図 1 0 に示す線図の変形量 0 m m ~ 1 5 0 m m までを積分して求めた値としている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 2】

